

# 提言

揺れ動く日韓関係、都心・丸の内での爆弾事件等々、内憂外患とも至る、の感ひとしおである。われわれとしても、余程しっかりと脚を踏んばってゆかないと、日本の将来はいったいどうなることやら。もとより、国際比較を試みれば、今日の日本は、やはり良い国だと思ふし、日本国民は共産革命の虚妄に賭けるほど愚かではないと思ふから、いたずらに悲観的になる必要は毛頭ないが、いずれにせよ、世の中、もっと精神的に住みやすいものにしてゆかねばならない。

その点で、マスコミにはあまり期待できない以上、知識人諸先生方の責任は重大である。知識人といつても、いわゆる進歩的インテリや時流に乗じて変身する現実主義者、それに、田中内閣が列島改造論をひきつけて登場したときにはそれに浮かれて動き、田中内閣の評判が悪くなる

## 「退有後言」を慎しめ

田中政治なることと田中政治の先生方は、とかく一国一城の主であるだけに、国を憂うる国士であればあるほど気難かしかったり、身勝手であったり、はたまた他人の迷惑を考えずに自分の都合で約束の時間をクルクルと変更したりする先生方もあつたりして、なかなか事がス

ムースに運ばないことが多く、その結果、人間関係においてキスギスすることがたびたびである。この困難の時期に、これは大変困ったことである。そこで、一つだけルールを提言しよう。そのルールとは、中

には「利敵行為」につながらず、いかに問題をこじらせ、結果的に、と仰言られる先生方もあろうが、これからは諸事万端に多忙の秋なつうから、せめて「退有後言」を慎しみ、世直しのため、日本の将来のため、一致固結して進んでほしいものである。

妄言多謝。

11/15 退有後言 49.9.15